

下水道 OB 等へのアンケート調査の結果

1) 目的

プロジェクトの支援体制検討に向けた情報収集を目的として、下水道行政 OB 等へアンケート調査を実施し、下水道の市民科学の取り組み支援に対するニーズを把握する。

2) 実施概要

【アンケートの配布】 下水道アドバイザー制度（下水道事業支援センターが委嘱）に登録している方には、下水道事業支援センターを経由して、調査票を送付した。環境カウンセラー登録制度（環境省が認定）に登録している方には、環境省の環境カウンセラーのホームページより、調査票を送付した。回答は、インターネットによるアンケート回答サイトへ回答頂いた。（一部ワードでの回答もあり）

【発送日】 平成 31 年 1 月 17 日（水）

【回答期限】 平成 31 年 2 月 15 日（金）

【調査対象者】 下水道アドバイザー制度に登録する下水道行政 OB 等 39 名のうち、アンケートにご協力頂ける 25 名、環境カウンセラー登録制度に登録する下水道行政 OB 等 34 名、合計 59 名に依頼した。

【アンケート回収状況】

- ・発送数 : 59 名
- ・回収数 : 38 名
- ・回収率 : 64.4%

【アンケート調査項目】 主な項目は以下のとおり。

< 現在取り組んでいる主な支援活動について >

問 1 どのような支援活動（活動内容）を行っていますか。

問 2 どのような形態により支援活動を行っていますか。

問 3 どのような方を対象に支援活動を行っていますか。

< 下水道の広報活動について >

問 4 下水道の役割、課題、魅力などを知ってもらう下水道の広報活動を行ったことはありますか。

問 5 行ってきた下水道の広報活動の中で、最も有意義に感じた活動について教えてください。

< 「下水道の市民科学」のニーズについて >

問 6 「下水道の市民科学」の取り組みについて、知っていましたか。

問 7 「下水道の市民科学」の取り組みについて、どのように思いますか、関心はありますか。

問 8 「下水道の市民科学」の取り組みを支援するコーディネーターとして、活動に参加したいと思いますか。

問 9 「下水道の市民科学」の活動に参加して具体的にやりたいことがあれば、教えてください。

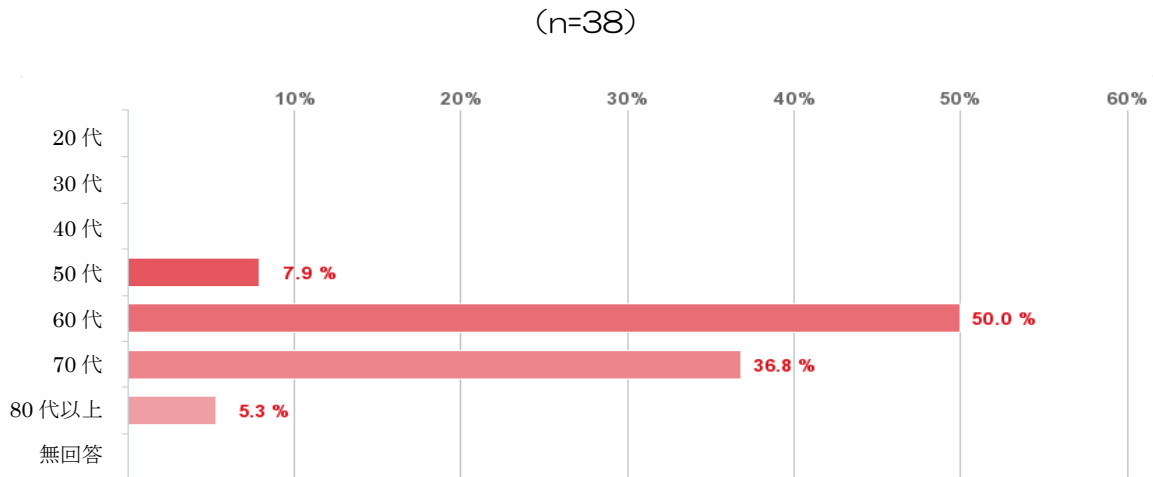
問 10 どのような条件なら、コーディネーターとして活動に参加したいと思いますか。

3) アンケート結果

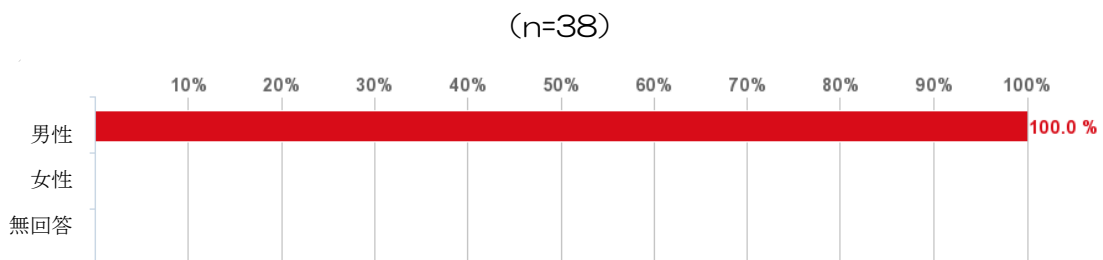
アンケート結果を以下に示す。

(回答頂いた方のご自身のこと)

年 齢



性 別



活動エリア

(n=38)

北海道・東北

- ・北海道内自治体他、一部、東北自治体
- ・北海道内の自治体からの相談へのアドバイス程度
- ・青森県弘前市
- ・福島県
- ・仙台市
- ・岩手県宮古市、陸前高田市、宮城県気仙沼市、石巻市、亘理町、村田町、福島県浪江町、大熊町、双葉町
- ・岩手県盛岡市(本日の時点で進行中)、熊本県益城町(2018.7 済)、それ以前は多数あり。

関東

- ・千葉県・市川市
- ・海老名市・座間市

- ・東京都、神奈川県、埼玉県、群馬県 市町村：府中市、渋川市 海外：ポートモレスビー
- ・主に都内。
- ・千葉県野田市
- ・神奈川県内都市ほか、東京都、千葉県内一部都市（仕事の範囲）
- ・東京都、千葉県
- ・関東地方
- ・東京都 神奈川県
- ・東京都
- ・東京都、特に多摩地区の市
- ・埼玉県内

中部

- ・浜松市
- ・愛知県
- ・長野県
- ・岐阜大学 ME 講座集中講義の非常勤講師 講義題目：劣化モデルと評価手法（上下水道）・上下水道の維持管理
- ・岐阜県内 養豚廃水等

近畿・中国・四国

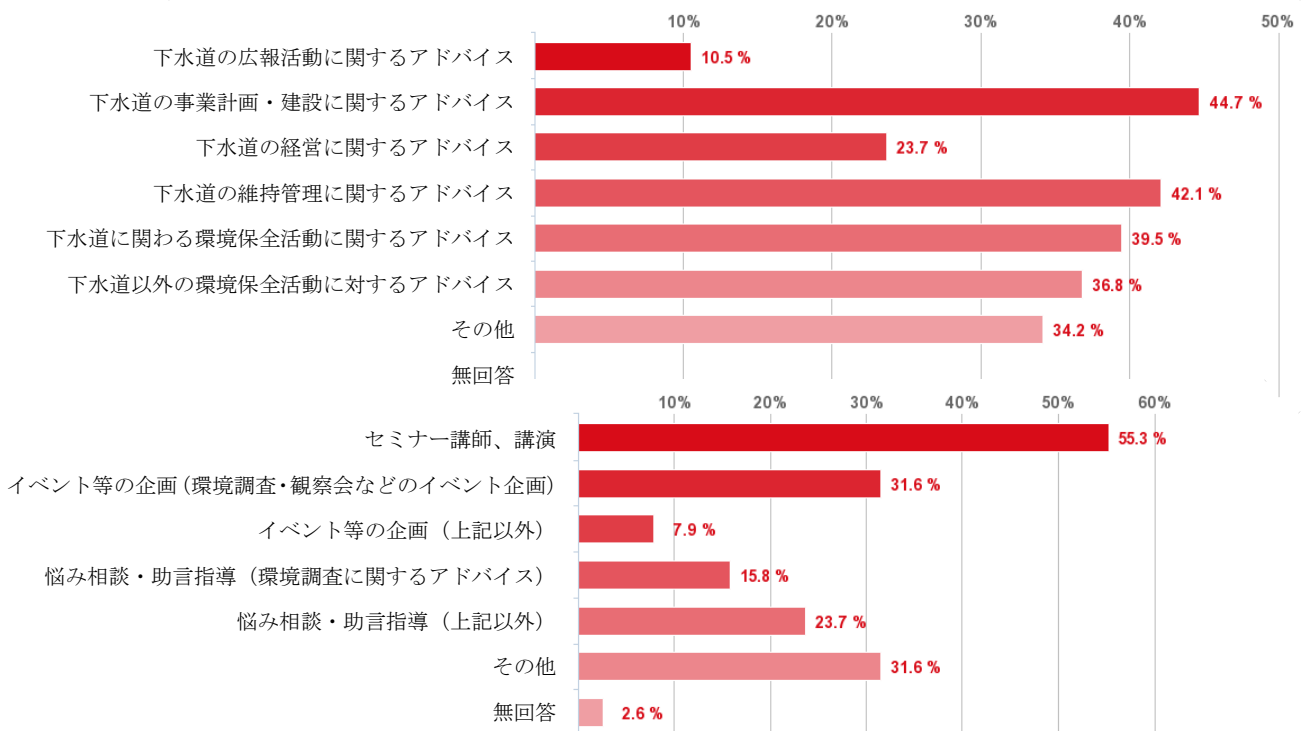
- ・奈良市など
- ・大阪府、京都府、滋賀県等
- ・下水道事業支援センター に登録している下水道アドバイザーとして、徳島県や福井県の下水道外郭団体主催の下水道講習会で講義を実施（2018年）
- ・福井県、奈良市、滋賀県など全国
- ・広島県福山市
- ・香川県、高松市

九州・沖縄

- ・福岡市、福岡県
- ・福岡県福岡市、北九州市、春日市、鞍手郡小竹町
- ・沖縄県及び沖縄県内市町村
- ・九州地域
- ・全国の都道府県及び市町村
- ・現在はしておりません
- ・（一財）下水道事業支援センター

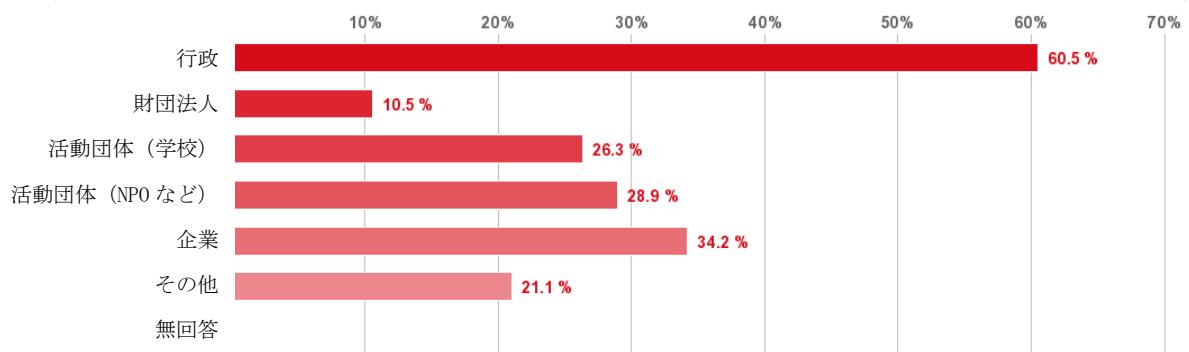
問1 どのような支援活動（活動内容）を行っていますか。

(n=38)



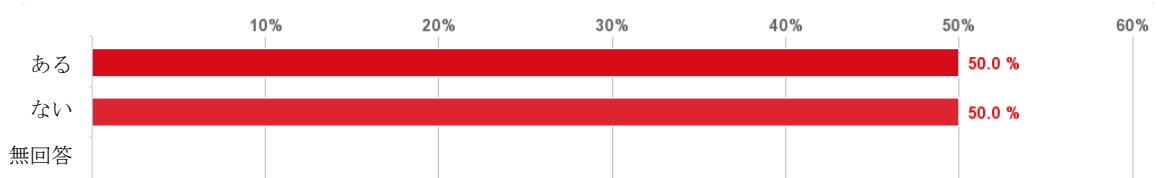
問3 どのような方を対象に支援活動を行っていますか。

(n=38)



問4 下水道の役割、課題、魅力などを知ってもらう下水道の広報活動を行ったことはありますか。

(n=38)



問5 (問4で活動を行ったことが「ある」と回答した方)

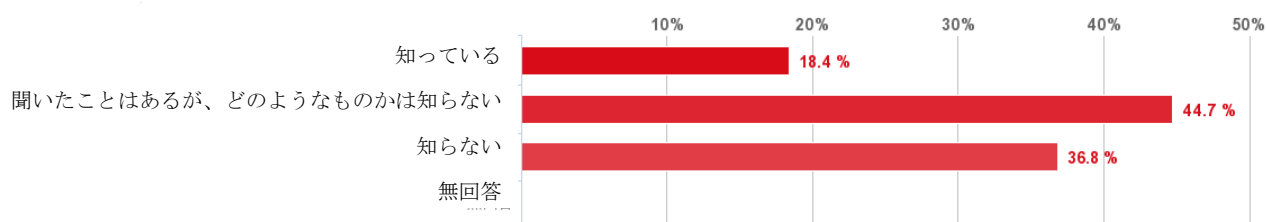
行ってきた下水道の広報活動の中で、最も有意義に感じた活動について教えてください。

(n=19)

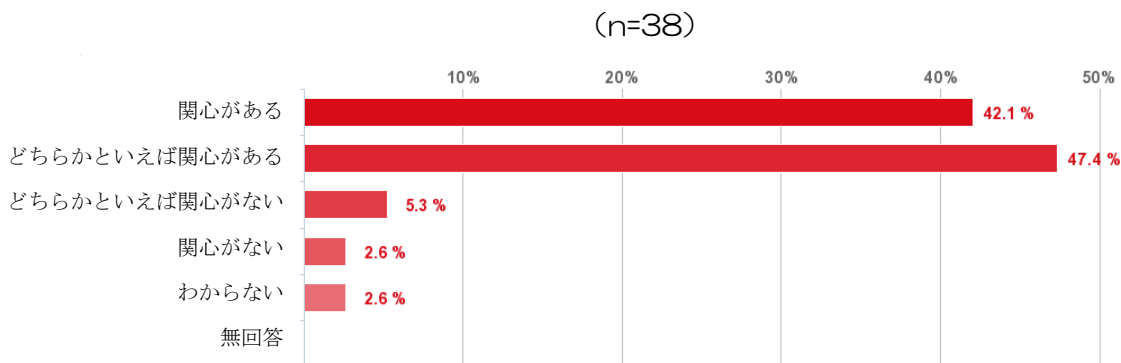
- ・下水道が供用（接続）されたエリアでの河川水は汚染が低いことをパックテストで調査し、下水道地域でない地域での活動が有意義。
- ・河川浄化を早急に改善するにあたり、共用開始地域の事業場・住民に対して浄化槽から下水道への切り替え促進を進めるため、工事補助金制度などを含めた説明会、資料配布を定期的に行うと共に、宅内工事遅延住宅等には催促状を送付して普及率の向上に努めた。
- ・地域の小河川を最上流から下流部まで案内し、最後に下水処理場を見学するツアー
- ・①下水道と集落排水と浄化槽の違い ②下水道による河川と海域の水質改善
- ・大阪市環境経営推進協議会において、大阪市の上下水道と事業者の水利用について講演を実施し、節水型社会の構築の必要性を多くの企業に説明できたこと。
- ・下水道の普及が水質の環境保全に貢献できること。
- ・全国的に資源化困難とされ厄介者扱いされ市民から評価に低い下水道汚泥を原料として、化学肥料より栽培効果が高く、病害にも強いアミノ酸肥料として、使用農家からも高い評価を得ることができたこと。従来の下水道汚泥肥料の悪いイメージを一新できたこと。
- ・岐阜大学が講座修了者に対し交付している履修証明プログラムの一端を、初回講義から現在に至るまで連続して担っていること
- ・下水道の維持管理費の削減
- ・GKP 北海道のコアメンバーとして「下水道事業パネル展」札幌市・北海道地方下水道協会主催）への企画協力（昨年度は、道内下水道遺産パネル展示、マンホールカード展示、道内デザインマンホールの総選挙など
- ・地球規模の大きな水循環の中で下水道というシステムが担っている役割を、その長い歴史とともに理解・体感してもらった。
- ・小学生を対象にした下水道の仕組み等の出前講座
- ・現役時代兵庫県武庫川下流域下水道の所長を4年間やりました。この時に関係住民如何に下水道について正しく知ってもらえるかについて大変苦勞をしました。この中で大人よりも小学生（4年生以上）を対象に広報活動を行うことが効果的であった。
- ・ホームページ公開
- ・市街地の雨水排水が下水道によって担われていることを理解してもらったとき
- ・1,処理場建設反対運動で中座している中で、受益地内の住民から意見を徴集し、その意見に回答する調査を行った。(s54年、統計理論式から1300人を抽出) 2,下水道による水質改善効果測定について、「アメンバー調査(水生昆虫調査)」を学童と行政の協働で行うことについて助言、現地指導を行った。(s44年～s54年)
- ・環境インフラとしての下水道を河川等の環境団体に理解していただくこと
- ・下水道展に参画し再構築の必要性、その方法などについてPRした
- ・下水道施設の見学会

問6 「下水道の市民科学」の取り組みについて、知っていましたか。

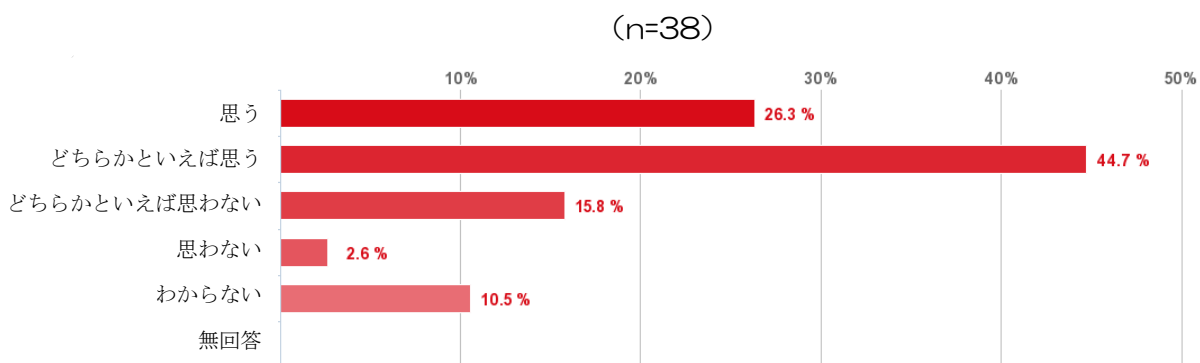
(n=38)



問7 「下水道の市民科学」の取り組みについて、どのように思いますか、関心はありますか。



問8 「下水道の市民科学」の取り組みを支援するコーディネーターとして、活動に参加したいと思いますか。



問9 (問8で活動に参加したいと「思う」・「どちらかといえば思う」と回答した方)「下水道の市民科学」の活動に参加して具体的にやりたいことがあれば、教えてください。

(n=24)

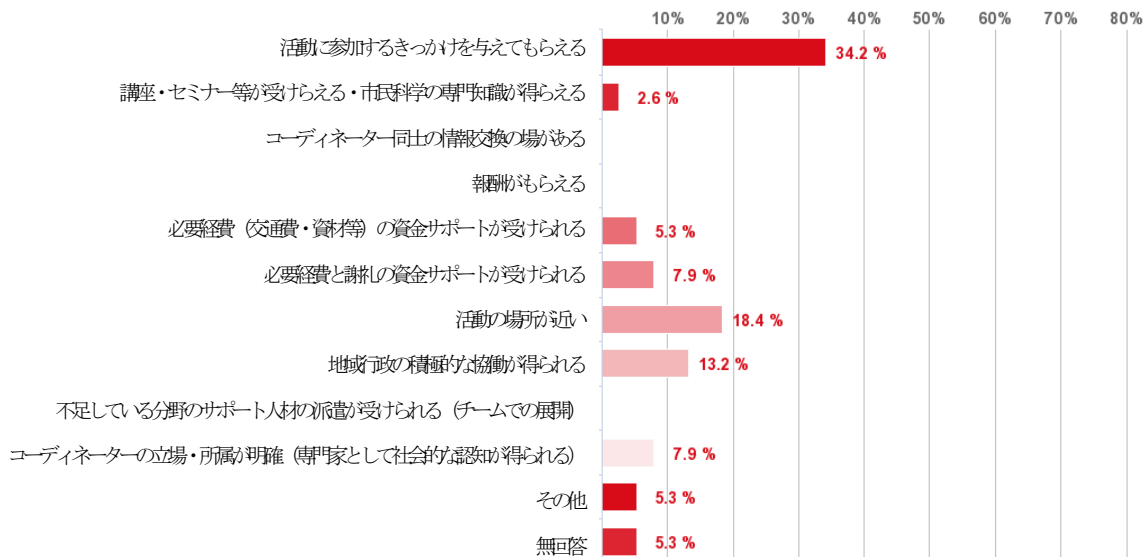
- ・ 行政課題の解決
- ・ 下水道処理水の海域生物に与える影響
- ・ A9のようなツアー（地域の小河川を最上流から下流部まで案内し、最後に下水処理場を見学するツアー）
- ・ 公共用水域の水質改善について、効果と費用、及び使用エネルギー等について周知する。
- ・ 近隣市町村の小学生等と共に河川水調査等を実施し、下水道の果たす役割を理解してもらいたい。
- ・ 下水道のミッションの広報
- ・ 下水道の役割、処理技術の解説、
- ・ 市民にとって下水道は普段目に触れたことがない分野ですが、下水道も官・学・民共にイベント等を通して解り易い説明をされていると思います。普及率が高くなると同時に生活に欠かせないものになっています。あたりまえのものとして日常生活に溶け込んでいるために自然災害の際の対応が重要になっています。いつ災害が発生するか誰もわかりません。日頃の災害に対する取り組みが計画的に実施していくことが大事です。各所で市民が集まり易いイベントを利用した説明を行いたい。但し、実施にあたり費用も生じます。
- ・ 汚水処理の未普及対策（接続促進）、災害時対応のアドバイスなど

- ・①市民参加の下水道汚泥のアミノ酸肥料化促進・普及 ②下水道汚泥アミノ酸肥料化希望企業と誘致自治体との仲介事業 ③下水道汚泥アミノ酸肥料の農家、市民活用の促進及び調査活動の実施 ④自治体による下水道汚泥アミノ酸肥料化事業の導入
- ・これまで行政（高松市）で、主に下水道計画及び下水道整備、浸水対策等に関わってきた。現在は、下水処理場の維持管理に関わっており、市民と行政を繋ぐ役割が出来ないかと考えている。
- ・公共用水域の水質改善 自治体に対し 維持管理費の削減
- ・今後の下水道事業と課題
- ・下水道施設見学会などでの案内人・解説者。市民団体や行政規格の学習会などでの講師。
- ・下水道の防災における役割の普及
- ・今までの経験を活かすとすれば下水道の広報関係
- ・下水道の維持管理面に係る必要な基本的事項が下水道の利用者に認知されていない現状がある。このため、不明水や、グリスアップ（油脂）等の課題が発生しており、無駄な税使用に連なっている。住民の財産である下水道を正しく使用してもらい、下水道の延命化を図れるよう努力したい。
- ・環境であるといいが、下水道というとなじみにくい。
- ・中小規模自治体においては、下水道事業の収支が合わず集合処理方式の下水道は事業の存続にも関わってくる。そこで、処理方式の変更も視野に入れた事業継続が必要とされているため、下水道事業が社会的共通資本ともいうべきものであることを啓蒙したい。
- ・自治体の出前講座等の手伝いをする
- ・1, 下水道を利用しない家庭からの排水で側溝から悪臭が放ち地域が困っている。これを「下水道の市民科学」の調査で下水道利用の啓蒙活動となれば良いと思う（しかし、現実には活動団体が糾弾することの遠因となるため困難と思われるが）。 2, 下水汚泥の農業利用がすすまない原因調査
- ・環境インフラとしての下水道を河川等の環境団体に理解していただくこと
- ・行政に在職中に経験した知識や知見を基にアドバイスができればいいと思います
- ・環境再生や街づくりなど他の活動団体と連携した交流イベントへの参加

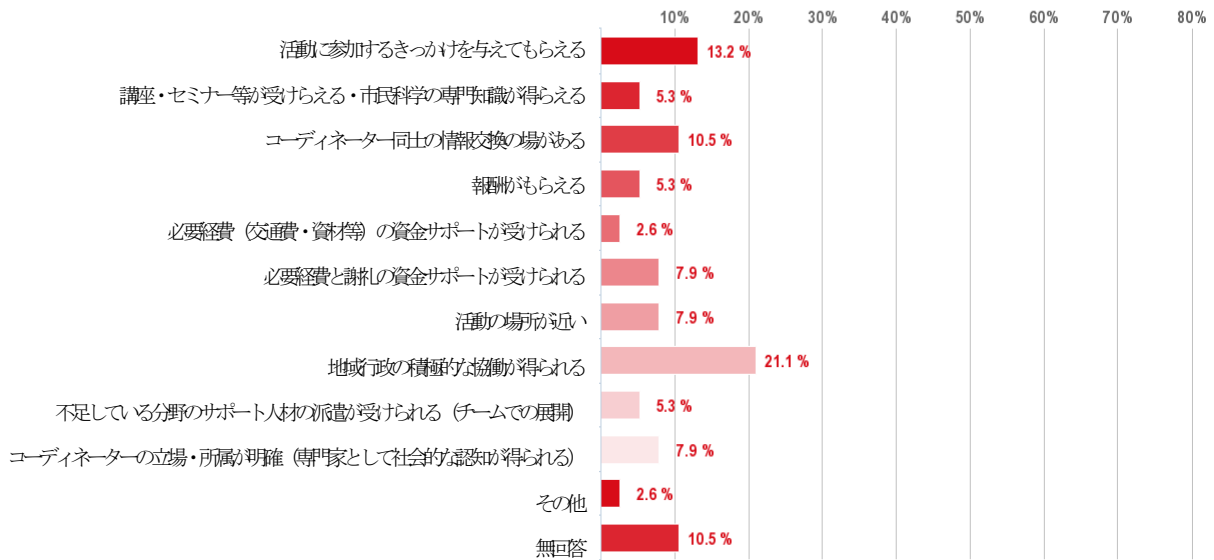
問 10 どのような条件なら、コーディネーターとして活動に参加したいと思いますか。優先度の高いと思うものから、優先順位をつけてください。

(n=38)

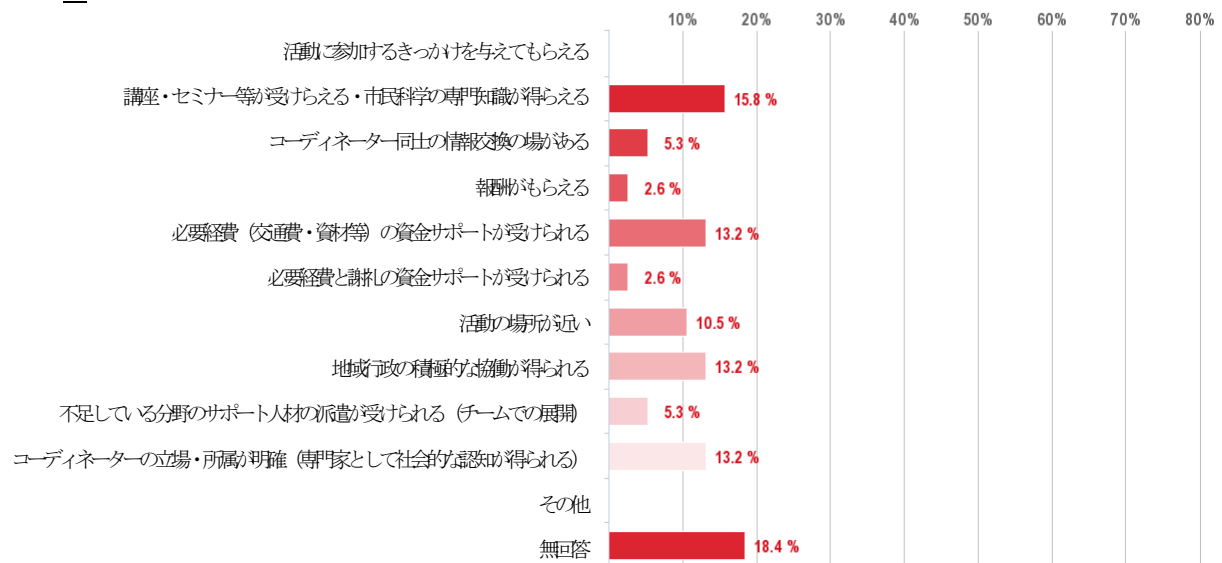
1 位



2位



3位



下水道の大学関係者へのアンケート調査の結果

1) 目的

プロジェクトの支援体制検討に向けた情報収集を目的として、下水道の大学関係者へアンケート調査を実施し、下水道の市民科学の取り組み支援に対するニーズを把握する。

2) 実施概要

【アンケートの配布】 プロジェクト GAM マッチング促進会合（平成 31 年 2 月 5 日開催）に参加された大学関係者へ、調査票（エクセルファイル）を送付した。

【発送日】 平成 31 年 2 月 5 日（火）

【回答期限】 平成 31 年 2 月 20 日（水）

【アンケート回収状況】

・ 発送数 : 11 名

・ 回収数 : 5 名

【アンケート調査項目】 主な項目は以下のとおり。

問 1 「下水道の市民科学」の取り組みについて、どのように思いますか、関心はありますか。

問 2 「下水道の市民科学」の取り組みを、大学の研究テーマの中で、実施したいといますか。

問 3 「下水道の市民科学」の取り組みで、具体的に取り組みたいテーマがあれば、教えてください。

問 4 NPO、市民、学校（小・中・高校）と連携しながら実施している活動があれば、教えてください。

問 5 下水道の市民科学の取り組みについて、ご意見等ございましたらご自由にご記入ください。